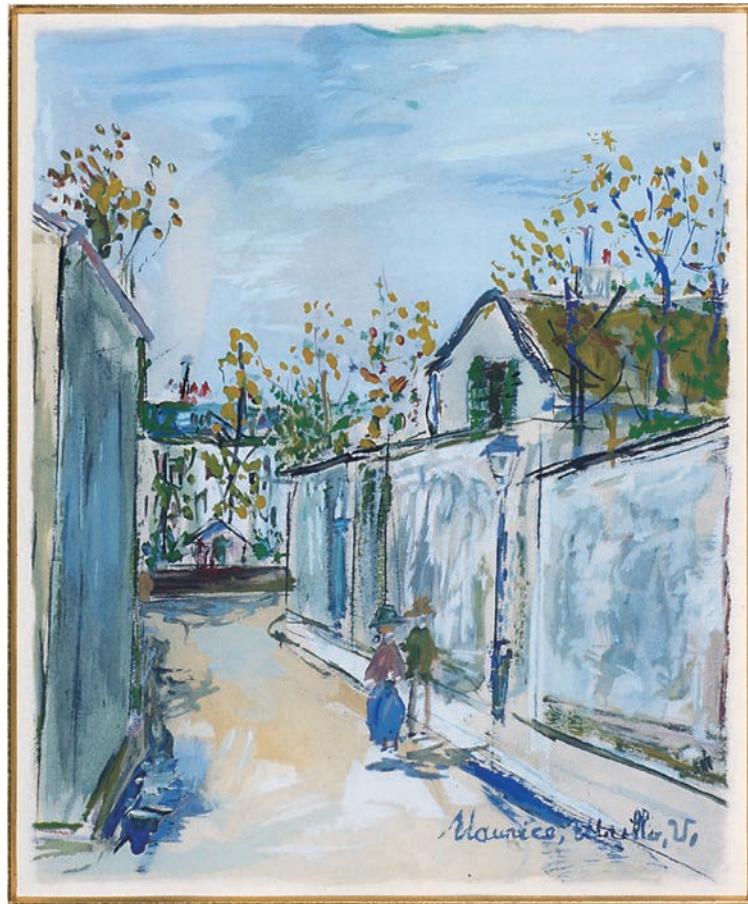


園の輪

そののわ No.191

学校法人 甲子園学院



モーリス・ユトリロ「サンビンセント通り」(甲子園学院美術資料館蔵)

CONTENTS

〈ESSAY 2025〉 2	〈学校園だより〉 4~9
「道から歴史をひもとく」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
森井 裕史	
〈学院トピックス〉 3	学院生の活躍 10
大学オーブンキャンパス	
教育振興基金	

ESSAY 2025

道から歴史をひもとく

森井 裕史



西宮にあります私の家の前に、南北の新しい道路が作られています。西宮には、東西にはいくつもの立派な道路があり大変便利ですが、南北にはあまり大きな道路がなく、南北の道路の敷設は西宮市の長年の課題です。本学西宮キャンパスの東側の道路はいずれ、これは何年先になるかはわかりませんが、国道171号につながる道路にするという昭和以来の計画もあります。西宮市は人口の多い南部地域のみならず、全市的に縦横の道路が比較的整然と整備されています。これは市民が道路建設に積極的に協力をしたからだ、と聞いたことがあります。先祖から受け継いだ土地を削られたり、他の土地と交換したりしてでも、道路の重要性を深く理解した人が多かったということでしょうか。

西宮市には古代より西国道、中国道などが通り、西宮神社はまさにこの結節点にあります。これらの道を抜きにしては西宮神社を中心として発展した西宮の中心部はもちろん、西日本の発展を語ることはできませんでした。西宮には城山という地名があり、また瓦林城跡の石碑が西宮キャンパス近くの日野神社にあります。中国道と西国道に挟まれたこの地

は、軍事的にも大事な場所であったことを示します。

西宮から東に目を転じますと、伊丹の有岡城、尼崎の塚口城、尼崎城があり、これらがだいたい直線に並んでいるのも意味があるとも思います。塚口城は塚口御坊と呼ばれる一向宗の拠点で、いまは阪急塚口駅プラットフォームの土台としてその一部が残されていますが、いずれにしても軍事的要衝であったと言えます。

有岡城に関しては、戦国時代ここに幽閉されたとされる黒田官兵衛は、実は荒木村重に捕らえられたのではなく、自らその地にとどまつたのではないか、という話をある歴史研究者から聞いたことがあります。織田信長の使いとして、信長に反旗を翻した荒木村重の説得に有岡城に向かった官兵衛ですが、村重にとらえられ、長期にわたって狭い土牢に閉じ込められたとされます。そのために官兵衛の足腰が悪く、一生の後遺症となつたと言われています。NHKの大河ドラマなどでも、そういうシーンが取り上げられたことがありました。

しかし、これに対して自ら有岡城にとどまつたとする説には伊丹の地が大きく関係しています。信長はいずれ丹波、但馬を経て山陰を治めることを考え、山陽、山陰そして京都、大坂に近い伊丹の地で情報取ることを命じたのではないか、というのです。これには多くの検証が必要かと思いますが、そういう仮説が出てくるのも伊丹と各地が西国道、中国道や有馬街道から丹波、丹波から山陰道とつながっているからでしょう。

道から歴史をひもといてみると、道は単に社会的インフラではないと考えるところです。

もりい ひろし ●甲子園短期大学准教授 就職課長

兵庫教育大学大学院教科・領域教育専攻修了。修士（教育学）。昭和58年4月兵庫県立高等学校社会科教諭。主幹教諭・教頭・校長を経て令和4年4月甲子園短期大学に着任。

オープンキャンパス

多くの参加者に好評

甲子園大学オープンキャンパス
は、四月二十七日から九月七日まで
の間に計十回開催しました。

今年度は、全体の進行を在学生主体にしたことが特徴としてあげ

られます。
その一つと



幼稚園 ブロック塀改修工事

幼稚園 ブロック塀改修工事

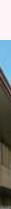
甲子園学院幼稚園のプロック塀の改修工事が、十月で完了しました。工事期間中は園児や保護者の皆様にご迷惑とご不便をおかけしましたが、事故もなく無事に終えることができました。

今回の工事では、「忍び返し」が取り付けられています。「忍び返し」とは屋根や塀などの高い場所に取り付け、不法な侵入を防ぐため鋭利な金属や竹などを使つた



防犯対策

かわいいフクロウやミミズクなどの動物が使われています。



○栄養学部食創造学科

○栄養学部栄養学科

かつた」という意見も多く、いただきました。

全体を通して一度だけでなく何度も来てくれるリピーターの高校生も多く、また来たいと思ってもらえるオープンキャンパスを教職員と学生の力で実現できました。

領域の専門家である教員たちによ
るミニ講義を行いました。また学
内の道具を使用した心理学の体験
コーナーを設け、教員や学生と会
話をしながら楽しんでもらうこと

○心理学部現代応用心理学科

本学で学べる六つの領域（発達心理学、臨床心理学、犯罪心理学、健康・スポーツ心理学、現代ビジネス心理学）の

教育振興基金

甲子園大学では、アラチナ世代（三十五歳以上の方）に心身の健康のための実学を提供しています。岡田さんは、中学卒業後理容師の道へ進み七十歳で退職。すぐに定

心理学部二回生の岡田喜代子さんが、十月三日、関西テレビの報道番組「NEWSランナー」で「七十六歳の青春 大学生活と夢」として密着取材を受けた様子が放映されました。

プラチナ世代の 学び直し

会和7年度 購入備品等

13年度・年度末購入備品等	
校種	購入した主な備品等
大 学	トイレ改修工事、ウォーターサーバー、(リース)複合機、エアコン空冷ヒートポンプ
短 大	エアコン修理・(リース)カラー複合機、複合機、プリンター
中 高	トイレ改修工事、空調設備更新工事、(リース)カラー複合機、複合機 時間割作成ソフト
小学校	タブレットPC充電保管庫、視力検査機、物置、(リース)複合機、特別教室プロジェクター
幼稚園	防犯カメラ設置工事、ユニット砂場設置、(リース)複合機、印刷機
本 部	空調機設置、(リース)複合機、シュレッダー、プリンター

左表のとおりです。
今年度の充当物品等について
は、格段のご支援、ご協力を
賜りますようお願い申し上げます。

時制高校で学び始め、卒業後、仕事で人との関わりが多かつたのでより専門的に人間関係を学べる心理学を勉強しようと思い本学に入学しました。同級生は、「岡田さんは年齢の違う若い世代の中でもんなのつなぎ役になつていて、なくてはならない存在です」と語っています。岡田さんは「准学校心理士の資格はぜひ取りたいと考えています。夢は『子どもが何でも話せるおばあちゃん』になることです」と熱い思いを持ちながら、若い人と一緒に楽しく学んでいます

運動会 10月6日(月)

10月6日(月)



ことり組。みんなが一生懸命走り切ったかけっこや可愛らしい衣装を身に

開会式後のラジオ体操、大玉送りを小学生のお兄さん・お姉さんたちと一緒に演技をした後は、いいよ学年ごとのプログラムです。ドキドキわくわく初めての運動

くの保護者の方々を前に緊張した表情の子どもや、お家の方と離にくそうにしている子どもの姿もありましたが、開会式が始まる頃にはみんな落ち着いてクラスの友だちと一緒に頑張ろうとする姿が見られ、頼もしく思いました。

一日延期の開催となつた運動会で、教師の予想を超えて、やる気満々で登園してきた子どもたちの姿に、安堵の気持ちでいっぱいでした。

付けダンスを披露した年少組。

友だちにしつかりとバトンを渡すことができた折り返しリレー。その子どもなりの自由表現を取り入れたダンス、そして玉入れでは熱い戦いを見させてくれた年中組。

年長児にとつて的一大行事であるおとまり保育。初めて親元を離れてお泊りする子どもも多く、ワ

おとまり保育

誕生日会

うだコールや色コール、エール交換などを小学生と一体となつて披露しました。

どの子どもたちもプログラムが進むごとに表情が変わり、開会式での緊張した表情がいつしか、たくましい顔つきへと変わっていました。

大きな経験と共に、一人ひとりが成長できた一日となりました。

A group of young children, likely preschoolers, are performing a synchronized dance or exercise outdoors. They are all wearing matching white shirts and colorful hats (blue, red, pink) and are in a line, facing forward. The background shows a modern building with large windows.

さらに昨年度から取り入れた
応援合戦!!この日のために「オ

幼稚園最後の運動会となる年長組は、思わぬ風に苦戦した大玉運び、友だちと気持ちを一つにして頑張つたパラバルーン、そして最後の最後まで熱戦となつたリレーと、どれも迫力に満ちた演技を披露してくれました。

年長児にとつて的一大行事であるおとまり保育。初めて親元を離れてお泊りする子どもも多く、ワ

力して いた だいた 夏祭りを いつぱい 楽しみ まし た。初めて の夜の 幼稚園、パジヤマ姿の 友だちと 一緒に 布団を 運ぶのも 嬉しそう で した。翌日、保育室に 宝箱が あり、開けてみると 手紙と ワッペンが。ワッペンを 手に した 子どもたちの 表情には 達成感が 見られ まし た。保護者の方から、何だかお兄さんお姉さんの 顔になつた みたいと 言われた の子も 誇らしげ で し た。子どもたちに とつて 忘れる 事が でき ない 一泊二日の大冒険 で し た。

り、花火な
ど楽しい事
が一杯で終
始目を輝か
せていた子
どもたち。
なかでも学
院小学校の
先生や保護
者の方に協

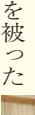
いう声と同時に、今日が近づくにつれ不安な様子も感じとれました。しかし、いざ始まるとクッキング

クワクとドキドキが入り混じつて
いる様子が伺えました。「楽しき
み!」「早くお泊りしたいな」と

毎月、その月に誕生日を迎える友だちをお祝いする誕生会を、全園児がホールに集まり行っています。

みんなで喜び合う、温かな時間と。誕生児の保護者の方にもお越しいただき、子どもたちの成長を

す。クラスの友だちが作ってくれたお祝いの冠を被つた



と実感できるこの時間は、友だちをお祝いする心や仲間意識を育む機会となっています。子どもたちの成長を感じ、みんなで喜び合える大切な時間です。

保護者の方のボランティア活動として、園児の絵本貸出しの手伝いや読み聞かせを行う図書ボランティアがあります。絵本貸出しでは、子どもたちは甲斐文庫という壁一面絵本の棚になつていて、部屋で好きな絵本を二冊選びます。次に、ボランティアのお母さんたちに絵本のタイトルを貸出カードに記入してもらいます。「この本がもしろいよね」「前も借りたことがあるんだ」と会話をしながら子どもたちは記入が終わるのを待ちます。その後、各保育室で子どもたち

保護者ボランティア (図書ボランティア)

場し、舞台に立つて自己紹介をします。年少中児はマイクを使い自分の名前と何歳になつたかを、年長児はマイクを通さず大きな声で名前と生まれた日、今がんばつて取り組んでいることを、自信をもつて話す姿に成長を感じます。その後、全園児からの歌のプレゼントや、教師からの出し物もあり誕生日を迎える友だちをみんなでお祝いします。

一人ひとりが大切にされている実感できるこの時間は、友だちをお祝いする心や仲間意識を育む機会となっています。子どもたちの成長を感じ、みんなで喜び合ふ大切な時間です。





低学年はリズム演技で、大坂関西万博のテーマソングである「この地球の続きを」に合わせたダンスを披露しました。大屋根運動では隊形移動を表現するなど、万

り遂げる子どもたちの姿に、自然と応援に熱が入り、見る人たちの目を惹きつけました。

運動会準備には、中高の先生方に加え中高バレー部の生徒にもお手伝いいただきました。

また、閉会式後には、テントやパイプ椅子の片付けなどの撤収作業では、多くの保護者の方々にもお手伝いいただき、手早く終えることができました。たくさんの協力を得て幼小合同運動会を終えることができました。

セリフが英語の劇、「ピーターパン」の世界を見事に表現し、日々の英語学習の成果を發揮しました。

五・六年生の合唱では、歌声とともに振り付けを、リコーダー奏と器楽合奏では、迫力のある演奏を届けました。劇は、街に遅れてやつてきたサンタクロースが恵まれない兄妹を笑顔にしようとする心温まる話でした。

最後は恒例のティーチャーズⅡ フエニックス&ダンサーズ。歌声とダンスに、会場は熱気に包まれました。

私は平成五年に甲子園学院小学校を卒業。早稲田大学理工学部・理工学研究科を経て、特許庁に特許審査官として入庁しました。昨年四月に大阪に転向となり、現在大阪大学大学院法学研究科で准教授をしております。主な業務は教育（学部生に知的財産法を、大学院生に特許法を講義）ですが、知財に関する論文執筆等、研究にも取り組んでいます。

高校まで慣れ親しんだ関西に赴任し、すぐに思い浮かんだのは甲子園学院小学校のことでした。同級生に連絡を取り、昨年十一月に校友と私の三人で小学校を訪問したところ、小学六年の時、担任し

幼小合同

幕開けとなつた恒例の大玉送りでは、幼稚園の満三歳児から小学六年生まで、トラックに沿つて体より大きな大玉を転がしゴールまで繋げていきます。赤組白組ともに頑張り、大接戦となつた勝負は、白組が二戦連続で勝利し、会場全体が歓声に包まれました。

博の世界観を見事に表現しました。「たたかえ！風神リレー」では、声を掛け合いながらコースを疾走する児童の姿に、会場の視線が釘付けになりました。

一年生は、「十一ぴきのねこ」を原作とした音楽劇でした。セリフだけでなく、元気いっぱいな歌声も披露しました。二年生は、ホタルたちが仲間とともに旅に出る話。劇の最後には、一学期から練習に励んできた演奏を披露しました。

十一月十二日、韓国の吉安初等学校の皆さんをお迎えし、国際交流を行いました。午前の歓迎セレモニーでは記念品の交換を行い、アトラクションで本校一～三年生が詩の群読を、四年生が英語劇を披露し、吉安初等学校は管楽器と

学習発表会

十一月八日



すばらしい先輩たち



岡本 健太郎
第三十七期生
大阪大学大学院
法学研究科准教授

ダンスを披露してくださいました。食堂で一緒に昼食をいだいた後、各学年団と折り紙やけん玉遊び、韓国伝統の遊びを一緒に楽しんだりしました。

国際交流流

ダンスを披露してくださいました。食堂で一緒に昼食をいだいた後、各学年団と折り紙やけん玉遊び、韓国伝統の遊びと一緒に楽しんだりしました。





コーラスコンクール

七月十日



一学期の締めくくりとして、西宮市民会館アミティ・ベイコムホールで「令和七年度コーラスコンクール」が盛大に開催されました。この行事は、歌の技術だけでなく、クラスの団結力や和衷協同の精神を育む本校の大切な行事です。四月、新クラスが編成されるとすぐに各クラスでは自由曲の選定と指揮者・伴奏者についての話し合いがもたれました。この初期の段階から、「絶対に金賞を獲るぞ!」という熱いスローガンのもと、クラス全員が同じ目標に向かって動き出しました。

ゴールデンウイーク明けから本格的な練習が始まり、クラスごとに異なる曲の解釈、音程の正確さや表現力、声質の調和など多くの課題に取り組みました。録音を活用して客観的に音を確認したり、練習後に反省会を開いたりと、各クラスが工夫を凝らして練習を重ねました。お互いの意見を尊重し、努力を積み重ねた約二ヶ月半は、

クラスという小さな共同体が、真の意味で一致団結していく貴重な時間となりました。

本番が近づくと、学校全体がコンクール一色に染まりました。特別時間割が組まれ、八限目には全体練習の時間が設けられました。こちらは美しいハーモニーや熱心な声出し練習の声が聞こえてきました。生徒たちは主体的に練習を進め、指揮者や伴奏者が細部まで表現指導を行う姿が見られました。一人ひとりの真剣な姿勢は周囲にも感動を与え、クラスの絆がさらに深まりました。

そして迎えた本番当日。緊張と期待が入り混じる中、生徒たちは舞台上に立ち、これまでの努力を信じて一音一音に魂を込めて堂々と歌い、クラス全員の心が通じ合つたハーモニーが、会場全体を包み込みました。歌い終えた瞬間の笑顔には、達成感と仲間との絆が溢れていきました。

表彰結果は次の通りです。

☆金賞 高校三年二組 「春に」

☆銀賞 高校二年二組 「時の旅人」

☆銅賞 高校三年三組 「変わらないもの」

☆伴奏者賞 高校三年三組 石川桃子

☆指揮者賞 高校三年二組 ブルガーデンをお借りして模擬店を展開する

大盛況の文化祭

十月四日

本校にて待ちに待った文化祭が開催されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々にご来校いただき、校内は朝から夕方まで活気に満ちていました。

各クラスでは、それぞれに趣向を凝らして催しを企画し、装飾や例年とは異なる運営方法に取り組むなどして、準備段階から試行錯誤を繰り返してきました。当日は模擬店やゲームなど多彩な内容が並び、訪れた方々の笑顔があちこちで見られました。

生徒たちの熱意と創意工夫が、来場者の心をしっかりとつかんでいたようです。



今年の文化祭では、人々の取り組みとして食堂を活用した飲食店の出店を行い、高校三年生と中学三年生、そして教職員がそれぞれ個性あふれるメニューを提供し、食堂は賑わいを見せました。高校三年一組は「フロート」、二組は「たこせん」、三組は「フランクフルト」、中学三年生は「わたがし」、教職員は「冷やし坦々そうめん」による「ボールプール」や「スー

を販売。どのメニューも大好評で、長い列ができるほどの盛況ぶりでした。模擬店もバラエティ豊かで、来場者を楽しませてくれました。中学生・二年生による「お化け屋敷」は、細部までこだわった演出でスリル満点、高校一年一組の「フォトスポット」では、映える背景と小道具が用意され、記念撮影を楽しむ姿が多く見られました。使う仕掛けが満載で、挑戦する来場者の表情は真剣そのもの。

高校二年一組の「イカゲーム風ゲーム」はユニークな企画で、二組の「アメリカンダイナー」は本格的な装飾と雰囲気で異国気分を味わえる空間となっていました。さらに、今年は甲子園短期大学のイネー



ブルガーデンをお借りして模擬店を展開する

高校二年一組の「イカゲーム風ゲーム」はユニークな企画で、二組の「アメリカンダイナー」は本格的な装飾と雰囲気で異国気分を味わえる空間となっていました。さらに、今年は甲子園短期大学のイネー

奏を皮切りに、生徒有志によるステージ発表が行われました。ダンス、歌、コント、ものまねなど、ジャンルは多岐にわたり、どの発表も日頃の練習の成果を感じられる素晴らしい内容でした。観客席からは拍手と歓声が絶えず、会場は一体感に包まれていました。教員によるジャグリングも披露され、笑顔と驚きが広がる楽しい時間となりました。

雨天にもかかわらず、多くの方々のご協力とご支援により、今年の文化祭も無事に盛会のうちに終えることができました。生徒たちの努力と来場者の温かい応援がひとつになつた、忘れがたい一日となりました。

土井善晴先生 公開講座

大 学 祭

十一月十五日、本学客員教授土井善晴先生の公開講座を開催しました。一般参加者九十八名を含め、学生・教職員総計百三十名が聴講しました。



「料理は人間の喜びか?」をテーマに大阪・関西万博「BLUE OCEAN DOME」のカフェスペースで話題となつた土井先生監修の「海と山の超純水」に触れながら、自然の恵みについてお話をありました。さらに、「自然の物を材料に料理し、食事をいだとき、その後は片付けてきれいにする。この循環の持続が人の喜び、幸せにつながる」とのお話



好評で完売。卒業生によるかぎ針編みのお花やさん、関係者による押し花やドローリン等、新しく設置した体験コーナーは楽しい交流の場にもなりました。芝生ではゲリラ的に行われるダンスやパラルーンもあり参加した子どもたちの歓声や見守る保護者には、会場で頷く姿が多く見られました。将来、料理人を目指す学生との質疑応答では、美しいもの、例えば料理を盛り付ける器などを見せて、「いいものがわかる」というお話を

<短期大学の沿革>	
昭和39	甲子園短期大学 設置認可(家政科)
昭和42	幼児教育科 開設
昭和47	初等教育科 開設
平成元	日本文化科 開設
平成11	家政科の専攻分離(家政・生活福祉)
平成13	日本文化科を文化情報科に名称変更
平成16	家政科を家政学科、幼児教育科を児童教育保育学科、文化情報科を文化情報学科にそれぞれ名称変更
平成21	家政学科を生活環境学科に名称変更、さらに専攻課程の名称を生活環境と介護福祉に変更
平成29	生活環境学科で専攻を廃し、フィールド制(ライフキャリア・介護福祉)を導入

短期大学六十年の歴史を振り返るその②

九月十八日、生活環境学科、児童教育保育学科の全学生合同による「令和七年度全学フィールドワーク研修」を行いました。今回は「神戸六甲ミーツ・アート2025」が開催されている六甲山上で、自然とアートを楽しみ、アート鑑賞を通じて、より広く多様な視点で六甲山の環境を考えることを目的とした企画でした。学



全学フィールドワーク 研修報告

研修報告

生たちは事前にそれぞれ六甲山について調べるとともに、会場マップや山上バスの時刻表などから、行動計画を立案し研修に参加しました。学生からは「日頃出会えない自然と一緒にアートで実りある一日を過ごしました。」と、甲山頂で実りある一日を過ごしました。

短期大学は、建学の精神に基づき、広い一般教養と専門的知識・技能を授け、健全円満な人格の陶冶を図るとともに専門の職業に従事し、社会の発展に貢献できる人材の養成を教育理念として、昭和三十九年に家政科からスタートしました。その後、時代や社会の変化に合わせて学科を創設・改変してきました。

訂正 前号の短期大学六十年の歴史を振り返るその①において初代学長の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤「斎藤容寿」→正「斎藤睿寿」



十月二十三日にサイコカップが行われました。サイコカップとは心理学部で毎年行っている運動会で、前期から学生を中心企画・運営を行っています。



第26回 サイコ力アップ開催

今年は四チームに分かれ、綱引き・ドッジボール・玉入れ・二人三脚競争などの種目を実施し、総合得点で競いました。普段とは異なる学生たちの一面を見ることができ、有意義なイベントでした。

学生たちは、から店頭販売までを体験することで、創意工夫した商品を世に送り出す楽しさと大変さ、そしてそれが評価されるという成功体験を積むことができ、大きな学びを得ることができました。

「成人における不ガティブな感情と嗜好の関連」についてポスター発表を行いました。本研究は、食べることの楽しみや健康維持に欠かせない「味覚」と感情との関係性に着目したもので、成人六十七名を対象に、体調や気分を評価したうえでコーンスープを試料として、イン学科四年生の左鴻鈴音さんが「レドデザ」と題して発表を行いました。

いた「活気にあふれた」などの感情に有意な変化が見られた一方で、塩味や甘味、風味など味覚に関する項目には統計的な有意差は認められませんでした。しかし、味の感じ方に一定の傾向が示されており、今後は試料の種類を変えて検証する必要があることが示唆されました。研究成果を多くの人々にご覧いただき、研究内容を発表する中で新たな視点や課題につながる貴重な機会となりました。



第五十七回 紅葉祭

第五十七回紅葉祭を開催しました。今年のテーマ「百花繚乱」には、様々な人々の才能や魅力が集まり輝いてほしいという願いが込められています。今年は特別に、

私たちの生活に欠かせない「食事」。もし毎日の食事で病気を予防し、生活の質（QOL）を高めることができたら、とても素晴らしいと思いませんか。

025が宝塚阪急で開催されました。このイベントでは、管理栄養士、栄養士、食ビジネスなどの領域で学ぶ学生が主体となり、レシピはもちろんのこと、パッケージデザインや販売価格を含めたオリジナルレトルトカレー(ディイクアウトも含む)が販売されました。

心理学部の井上晴菜助教と藪田回哉助教が日本心理学会第八十九回大会（九月五日～七日、東北学院大学五橋キャンパス）で学会発表を行いました。一九二七年に創立された日本心理学会は、心理学の総合学会の中でも歴史のある学会になります。今回の大会の参加登録者数は約三千人と、全国規模の学会です。学会発表について、お二方に感想を頂きました。

を考える」というシンポジウムで登壇しました。私の発表について、大学院生の方から質問を頂きました。研究内容とその方法について興味を持つていただけたようで嬉しかったです。

授業紹介
「公衆栄養学」

八月二十日(二十五日)
宝塚カレーグランプリ2
025が宝塚阪急で開催

日本心理学会で
学会発表

井上助教 私は、今大会で初めて話題提供者として「声が伝える『私らしさ』と『その人らしさ』を考える」というシンポジウムで登壇しました。私の発表について興味を持っていただけたようで嬉しかったです。

薮田助教 「アニメ視聴が癒しをもたらすプロセス」という題目でボスター発表をしました。学部生や著名な先生を始め、アニメ好きの方も来てくださいり、研究からアニメ談話に至るまでさまざまな方と交流させてもらいました。また基礎から臨床まで幅広い心理学の講演が企画され、心理学を堪能できる時間を過ごせました。

